

建築土木工学科

キーワード

建築、建築家、建築士、建築設計、建築計画、意匠設計、デザイン、デザイナー、ワークショップ、リノベーション、集合住宅、住宅、交番、病院



准教授 / 修士

清水 俊貴

Toshitaka Shimizu

学歴

福井大学 工学部 建築学科、福井大学 大学院 工学研究科 建築学専攻 修了

経歴

富永譲・フォルムシステム設計研究所、清水建築設計店一級建築士事務所、東京デザイン専門学校講師、パンタンデザイン研究所講師、六本木アートナイト2015参加アーティスト、ディスカバリーフクイ2019ユニットマスター

相談・講演・共同研究に応じられるテーマ

建築設計、空間デザイン、建築士の職能、リノベーション、ワークショップ

メールアドレス

shimizu-t@fukui-ut.ac.jp

主な研究と特徴

「武蔵小山の長屋」(写真1)

東京都品川区の東急目黒線武蔵小山駅近く、下町風情漂う活気のあるアーケード商店街を抜けた辺りに建つ18戸の集合住宅である。東面で6mのみ接道し、西面の緑道に向かって奥行き33メートル超の東西に細長い敷地である。南北面は、町工場や集合住宅、戸建住宅が迫っており、敷地そのものが、前面道路より丁の字のごとく奥へと続く、この界隈に点在する「横丁」のような空間である。

この敷地の特性を取り込むべく、1階を土間空間としたメゾネット、トリプレットタイプの住戸を断面的に絡み合うように積み重ね、敷地内に設定した新たな「横丁」というべき通路に面して並べた。街につながる「横丁」の水平的な広がりを土間で取込み、住戸内で階段を巡って生活を垂直的な広がりへと展開している。

隣接する工場、マンション、住宅の開口部に配慮しながら、周辺建物群のスキマを見だし、敷地の外へ、さらに街へと抜ける視線を獲得すべく開口部を穿つ。さらに横丁に面する隣地工場の外壁を補修、塗装することで工場壁を借景に見立てている。細長い広場のように設えた外部空間を生活空間へと取り込み、気持ちのよいスケール感を生み出すことを試みた。

「コテトラ (Cotetra) ワークショップ」(写真2)

コテトラ (Cotetra) と名付けた立体造形は、市販のストローとゼムクリップを繋ぎ合わせて正四面体等の簡易な立体から、高さ10mに迫るピラミッド状の立体、直径5m高さ2.5mのフラードームまで誰でも簡単にかつ複雑な造形までつくることが可能である。これまで様々なイベントでワークショップを行ってきた。

様々な大きさや形態を展開できて、誰でも制作可能な特性を生かして、本学において清水研究室の学生と共に、より見合った造形や演習の方法、運営の仕方を模索している。六呂師高原ミルク工房での「星空ハンモック」の夜間演出、福井市中央公園での「ワンパークフェスティバル2019」で他大学を巻き込んだ共同ワークショップなどである。

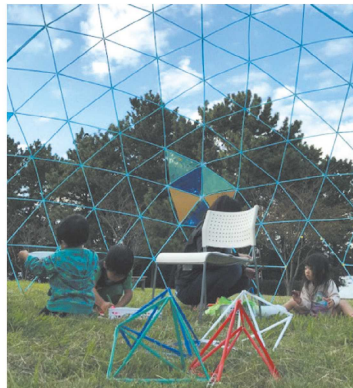


写真2. 直径5mのストロードーム

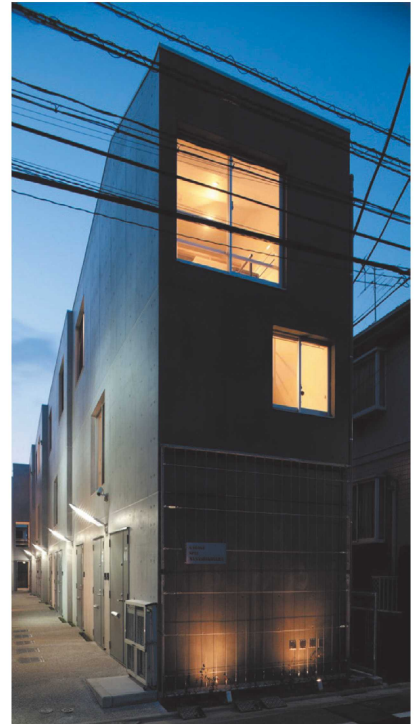


写真1. 武蔵小山の長屋 夕景

今後の展望

日本ガスが、川崎市浮島にて現在建設中のガス充填工場のデザイン監修を行なっている。羽田空港へと離発着する航空機や首都高を行き交う車両から注目を浴びるであろう巨大な膜屋根に覆われた施設である。工場は、建築施設の役割と、そこに設置される本来の目的の機器類の存在が極めて等価であることに特長がある。通常の建築の利用者が主に人間であることに比して、機器類やそこから生産される物質が主役である。また来るべき未来を見据えると、工場はより無人化がすすむ。物質をデジタルに置き換えてのコントロールがより行われる。

人間が介在する施設に先駆けてデジタル化が進行する施設の設計、デザインに携わっていくことは建築設計者としての知見を広げると同時に、今後の建築建設業界の未来を担う学生諸君を指導する上での大きな示唆を獲得することになると考えている。

建築設計者であると同時に大学研究者、そして学生のための教育者であり、また故郷福井への貢献、を同時多発的に進行させることが目標である。

所属学会

公益財団法人 日本建築学会 (2019~)

主要論文・著書

医療福祉建築賞2004：エンゼル病院 (富永譲・フォルムシステム設計研究所在籍時担当)

第14回福井市都市景観賞：毛矢町の家2006

新建築2012.8月号掲載：ガレージスペース武蔵小山

東京都他主催
六本木アートナイト2015 参加アーティスト
(ひかりうんそうクレジットにてワークショップ開催)